

知的障害者の余暇に関する文献レビュー：実践研究に焦点を当てて

A literature review on leisure education for persons with intellectual disabilities: Focusing on leisure education practices

山田 有輝也*・前原 和明**

YAMADA, Yukiya ; MAEBARA, Kazuaki

要旨

知的障害者の職業生活の安定に向けては、生活面の支援の一つである余暇に関する支援を行うことが重要となる。本研究では、知的障害者の余暇教育の実践に焦点を当てた文献レビューを行った。検索によって得られた文献の内容を、実践者の意図、獲得が目指された技能の観点から質的に整理した。その結果、実践者の意図は、「余暇のレパートリーの増加」、「保護者の負担軽減」、「仲間関係の構築」などに整理できた。また、余暇関連技能は、「行動維持・発揮」、「人間関係構築」、「活動参加」、「健康の保持」に整理できた。余暇支援においては、他者と関わる際に必要となる技能の獲得が多く指導されていたことが特徴であった。これらの技能が知的障害者の余暇の充実にどのように結びついているのか、また、これらの技能を学校現場、職場ではどのように支援することが必要かについては、さらなる研究が必要であると考えられた。

Abstract

To stabilize the working lives of persons with intellectual disabilities, it is important to provide support related to leisure activities, which is one of the life-related supports. In this study, we conducted a literature review focusing on the practice of leisure education for persons with intellectual disabilities. The content of the literature obtained through the search was qualitatively organized in terms of the practitioners' intentions and the skills that were aimed to be acquired. As a result, practitioners' intentions were organized into "increasing the leisure repertoire," "reducing the burden on parents," and "building peer relationships." Additionally, leisure-related skills could be organized into "maintaining and demonstrating behavior," "building relationships," "participating in activities," and "maintaining health." A characteristic feature of leisure support was that many of the skills taught were those necessary for interacting with others. Further research is needed to determine how these skills are related to the enrichment of leisure time for persons with intellectual disabilities, and how these skills should be supported in schools and the workplace.

キーワード：知的障害、余暇教育、特別支援教育、社会参加、移行支援

Key words: intellectual disabilities, leisure education, special education, social participation, transition support

I 問題と目的

近年、知的障害者の雇用の割合は増加傾向にある。障害者雇用実態調査（厚生労働省、2019）によると、現在、知的障害のある雇用者の数は、推計18万9千人とされており、これが年々増加している状況が確認できる。また、特別支援教育資料（文部科学省、2021a）では、34.4%が特別支援学校卒業後に一般就労をしている状況が確認できる。これらの実態から、就業前の移行支援を担う特別支援学校は、知的障害のある生徒の一般就労に

向けた指導をより良いものとしていくことが求められていると考えられる。

特別支援学校から単に次の就職先への移籍を目指すような出口指導ではなく、卒業後に質の高い職業生活を維持していきることができるような移行支援が求められる。根本（2020）は、職場定着の促進において職業生活の安定に向けた支援が必要であると指摘し、その一つの要因である余暇支援を通じた生活の安定によって、働くことが継続できるようにすることも重要と述べている。余暇の充実、就業への移行に向けた指導と同様に、知的障害のある生徒の就業後の生活を豊かにしていくために

* 秋田大学大学院教育学研究科

** 秋田大学教育文化学部

必要な視点の一つであると言える。

このような移行支援の大きな役割を担う特別支援学校における教育指導において、余暇に関する教育の必要性が指摘されている状況が確認できる。文部科学省が作成した「障害のある子供の教育支援の手引～子供たち一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向けて～」(文部科学省, 2021b)では、知的障害のある生徒の指導の方針が明確に示されている。ここには、知的障害について、「適応能力が十分に育っていないということであり、具体的には、他人との意思の交換、日常生活や社会生活、安全、仕事、余暇利用などについて、その年齢段階に標準的に要求されるまでには至っていない。」と記されている。ここにも記されているように、知的障害者の職業生活の安定に必要な要因の一つであると考えられる「余暇」に関する課題があると捉えられていることが確認できる。さらに、特別支援学校では、学習指導要領に基づいて教育が行われているが、この平成30年度特別支援学校学習指導要領解説総則編においては、「単に生活のみが保障され、仕事により賃金を得て、社会における役割を果たしていくのみならず、学習、文化、スポーツといった生涯にわたる学習や体験の中から生き甲斐を見つけ、人とつながっていくことが必要」(文部科学省, 2018a)と書かれている。そして、特に余暇に関して、平成30年度特別支援学校学習指導要領解説では、「「余暇」は、生活を豊かにするとともに、学校生活や将来の職業生活を健やかに過ごすうえでも重要である。」(文部科学省, 2018b)と書かれている。このように、余暇に関する教育指導を行うための方針が確認できる。

余暇を支援することは、単に、活動のレパートリーを増やすだけのものではなく、社会生活の充実を促すものであると考えられる。実際、安川・小林(2004)は、余暇指導の実践を通じて、余暇活動のレパートリーを増やすだけでなく、余暇活動に関連する様々な技術を身に付

けることを可能とし、生活の充実を促したことを報告している。しかし、その一方で、余暇における活動内容に関連したスキルの取得や向上に狙いを定めた研究が多く(加藤, 2018)、社会参加や社会生活、職業生活の充実を目指した実践は、少ないように見受けられる。

そこで本研究では、知的障害者の余暇に関する研究動向を明らかにするために、余暇指導の実践に焦点を当てて、余暇指導の内容及び観点について整理することを目的とする。

II 方法

1. 研究方法

本研究の目的は、日本国内における近年の知的障害者の余暇の実践を概観することである。そのため、本研究では、知的障害者を対象とした余暇の実践に関する文献レビューを実施する。

2. 文献検索の手続き

国立情報学研究所の提供するCiNiiの文献情報データベースに掲載された文献を検索対象とした。2022年4月18日に、2000年以降に出版された文献を対象として「知的障害」and「余暇」の組み合わせで検索を行った。結果、137本の文献が該当した。次に、この内、ポスター発表、重複した文献、特集論文、科研費報告書等の文献を除外した。除外した結果、計84本の文献が残った。この84本の文献について、本文の内容等を精査し、文献レビュー対象の21本の文献を選定した。この手続きは、図1に示した。

文献レビュー対象とした文献は、表1の通りである。

3. 分析方法

文献レビューにおける分析では、各文献の内容を質的に整理した。この質的な分析には、文献の内容面を質的

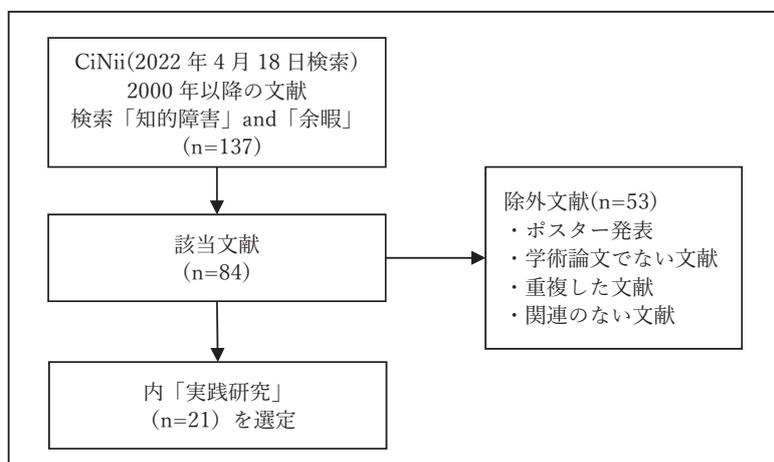


図1 文献検索の手続き

表1 文献レビュー対象文献

No.	著者名及び発表年	タイトル
1	坂口 (2002)	障害児・者の余暇活動 －横浜市の知的障害児・者のレジャー・レクリエーション活動の実際 (その2)－
2	細谷ら (2004)	知的障害児・者を対象とした余暇活動支援事業の実施に伴う検討課題
3	高畑 (2004)	軽度・中度知的障害生徒と中学生との地域余暇資源を活用した交流活動 －養護生徒・中学生・保護者からのアンケートを通して－
4	岡部ら (2006)	発達障害のある生徒の余暇活動の自発的開始の指導 －知的障害養護学校における休み時間の変容を通して－
5	大谷 (2006)	知的障害養護学校における「進路」に関する授業研究
6	由谷ら (2007)	知的障害養護学校における夏季休業中の余暇支援の実施方法に関する検討
7	松下ら (2008)	自閉性障害児の余暇活動における活動スケジュール利用の効果に関する事例的検討
8	岡本 (2009)	学校生活への参加が苦手な知的障害を伴う自閉症児の意思を尊重した支援
9	和田 (2009)	知的障害と右手まひのある A 氏への音楽活動支援 －片手オカリナを使った事例の考察－
10	岸田 (2010)	知的障害者への「大人の塗り絵」を用いた余暇指導とそのスキルの向上が対象者とその家族に与える影響の検討
11	畠山ら (2011)	附属特別支援学校小学部の土曜日キッズサッカーの試み (I)
12	平井 (2012)	知的障害者に対する音楽療法とその評価 －余暇の活用による QOL の向上を目指して－
13	畠山ら (2012)	附属特別支援学校小学部の土曜日キッズサッカーの試み (II) －キャリア教育の視点から－
14	榎本 (2013)	知的障害を伴った自閉性障害児に対する余暇活動スキルの獲得 －ビデオモデリングパッケージからの検討－
15	藤原ら (2015)	特別支援学校の生徒を対象とした余暇支援「おとあそび」の試み
16	樋田ら (2016)	知的障害者生涯学習支援事業の課題と展望 －社会福祉士・保育者養成機関での実践から－
17	佐々木ら (2016)	知的障害児の就労後も活用しうる人間関係の構築・拡大を基盤とした移行支援の実践的研究－仲間関係の拡大が顕著に見られたある事例の長期的な分析から－
18	細谷ら (2017)	長期休業を活用した知的障害児の余暇支援 －サマースクール in 函館の 20 年の取り組みを通して－
19	中澤 (2018)	知的障害児・発達障害児の支援に関する実践的研究 －大学生による余暇活動の企画運営より－
20	和田 (2018)	自宅や職場で気軽にできる余暇活動に関する研究－知的障害特別支援学校における「ナンプレ」を活用した実践から
21	村上ら (2021)	余暇活動を通じて自分らしさを発揮していく特別支援学校高等部の実践報告

データとして、意味の類似性から分類をしていく内容分析に準拠した方法をとった。分析焦点は、以下の通りである。

- (1) 実践を行う取組, 目的, 内容 (対象と方法) について整理
- (2) 実践において, 実践者が意図した余暇に関連して身につけさせたい技能 (以下, 「余暇関連技能」) の整理

III 結果及び考察

1. 余暇実践の概観

文献レビューの対象とした余暇実践には, 何らかの余暇活動プログラム等を提供する余暇活動と, 個別もしくは少人数を対象とした余暇支援事例が含まれていた。ここでは, この2つ分類に基づき, 対象とした文献における余暇実践を概観していく。

(1) 余暇活動

余暇活動プログラム等を提供する余暇活動を実践報告

表2 余暇活動に関する文献

No.	著者名及び 発表年	取 組	目 的	内容 (対象と方法)
1	坂口 (2002)	土曜プログラム (土曜日午後のミニイベント)	余暇活動ができる環境の整備	・横浜市の余暇活動の取り組みの整理
2	細谷ら (2004)	青少年の休日を楽しむ会 (歌遊び, 感覚遊び, ゲーム), 土曜日の活動	余暇活動の拡大	・作業所勤務者, 養護学校在籍児, 特殊学級在籍児 ・実施経過を整理
3	高畑 (2004)	ボウリング場での実践 (1日)	交流学习, 豊かな人間性や社会性の育成	・実践概要の紹介と養護学校生徒, 中学生, 養護生徒の保護者へのアンケート調査
4	由谷ら (2007)	ボランティア企画によるゲーム, バーベキュー, 遊園地への外出	夏休み中の保護者の負担軽減	・知的障害養護学校2校 ・保護者に対するアンケート調査
5	大谷 (2008)	働く生活を支える余暇に関する授業研究	進路の授業での余暇の過ごし方に関する指導	・高等部2年生, 中度の知的発達障害の生徒1名 ・授業批評による授業研究 ・生徒における記述
6	畠山ら (2011)	土曜日のキッズサッカー	運動技能向上, 運動機会, 友達関係の増加 QOLの向上	・キッズサッカーの経過を整理 ・大学生ボランティア, 保護者に対するアンケート調査
7	畠山ら (2012)	土曜日のキッズサッカー	地域教育に結び付けること	・運動能力に優れた自閉的傾向のある児童
8	平井 (2012)	音楽療法セッション	困難の解決, ノーマライゼーション, QOL向上	・音楽療法アセスメント票, 音楽療法評価基準を用いた音楽療法の実施経過を整理
9	藤原ら (2015)	おとあそび, 歌唱, 楽器演奏, 音楽づくり, ダンス, 音楽鑑賞, ゲームなど	放課後の余暇活動のバリエーションの増加, 保護者の負担軽減	・附属特別支援学校高等部生徒 ・生徒, 保護者, 支援者の大学生を対象とした質問紙調査
10	樋田ら (2016)	表現活動と学生との交流 (パソコン, 手話うた, 大学体験, 造形体験)	人権保障・発達補償	・オープンカレッジ参加者, 学生スタッフにアンケート
11	佐々木ら (2016)	校外余暇支援活動 (野外調理, 餅つき, 大学教員による理科実験, 美術の創作活動)	知的障害児の仲間関係の構築	・知的障害の21歳, 男性 ・アンケートとエピソードの整理
12	細谷ら (2017)	サマースクール (夏休みの4日間の活動)	夏休み充実, 保護者の負担軽減	・保護者, 大学生にアンケート
13	中澤 (2018)	レクリエーション (じゃんけん列車, 大型すごろく, キックベース等)	ボランティアによる活動の場の提供	・知的障害, 発達障害のある子ども, 計11名 ・学生ボランティアの振り返りと保護者アンケートを整理
14	村上ら (2021)	学校設定教科として「スポーツ」「カルチャー」「アート」の3分野	自己有用感を育む	・特別支援学校在籍生徒のエピソード

QOL: Quality of Life (生活の質)

した文献は, 計14本確認できた。この詳細は, 表2の通りである。

余暇活動に関しては, その実践の多くは, 「夏休み4日間のサマースクールでの活動」(細谷ら, 2017) や「土曜日のキッズサッカー」(畠山ら, 2011・2012) 等, 特別支援学校を中心に休日等において実施されたものについて, 余暇指導の観点から報告したものであった。これらの余暇活動は, 単に知的障害者の余暇の充実のために実施されているのではなく, 大学生などに対するボラン

ティアを通じた学びの場の提供, 保護者の育児に関する負担軽減といったことも意図されている状況が確認できた。これらの余暇活動には, 特別支援学校在学生だけでなく, 卒業生を対象としたものなどの種類があることが確認できた。

(2) 余暇支援事例

個別もしくは少人数を対象とした余暇支援事例を実践報告した文献は, 計7本確認できた。この詳細は, 表3

表 3 余暇支援事例に関する文献

No.	著者及び 発表年	取 組	目 的	内容（対象と方法）
1	岡部ら (2006)	休み時間に好みの行動に一定時間従事できる	自発的な余暇活動の開始行動	・知的障害養護学校中学部生徒 3 名
2	松下ら (2008)	アセスメント結果に基づきスケジュールに沿った指導	余暇レパトリーの増加, 問題行動の減少	・知的障害を伴う自閉症児 1 名
3	岡本 (2009)	意思決定の機会	QOL の向上	・知的障害を伴う自閉的傾向がある生徒
4	和田 (2009)	片手オカリナの指導	特性に応じた余暇の習得	・軽度知的障害のある 40 歳前半の男性
5	岸田 (2010)	本人が好きな活動である「塗り絵」	活動の定着, 芸術の有効性	・知的障害養護学校に在籍している女子生徒
6	榎本 (2016)	ババ抜きを通じた SST 実施	余暇レパトリーの増加	・余暇レパトリーの増加を目的とした支援
7	和田 (2018)	ナンプレの実施	短時間でできる余暇の習得	・生徒ヘナンプレの指導の経過

QOL: Quality of Life (生活の質)

SST: Social Skill Training (生活技能訓練)

表 4 余暇関連技能の一覧

大分類	小分類	具 体 的 内 容
行動の維持・ 発揮 (14)	意思表出 (5)	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら「～したい」と伝えること (村川ら, 2021) ・自らしたいことを相手に要求する (岡本, 2009) ・写真カード活動スケジュールを利用した意志表出 (松下ら, 2008) ・自分が好みとする活動を表出 (岡部ら, 2006) ・援助を求めるスキル (高畑, 2004)
	選択 (3)	<ul style="list-style-type: none"> ・複数の余暇活動 (CD, 漫画を描く, バスケットボール等) からやりたいものを選択すること (岡部ら, 2006) ・好きなチームや色, ポジションを選ぶこと (畠山ら, 2012) ・複数の活動から好みの余暇活動を選択する (岡部ら, 2006)
	積極行動 (6)	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら考え活動できる, 学生の手伝いをする (中澤, 2016) ・有給休暇を申請 (佐々木ら, 2016) ・友達と「遊びたい」という目標を設定 (佐々木ら, 2016) ・自分の役割を理解しやり遂げる (畠山ら, 2012) ・学習室で自発的な活動開始 (岡部ら, 2006) ・音楽的スキルによる自発的な余暇行動の促し (平井, 2012)
活動参加 (10)	遊戯活動 (7)	<ul style="list-style-type: none"> ・ナンプレを行うことができる (和田, 2018) ・サッカーの運動技能 (畠山ら, 2011) ・塗り絵の技能 (岸田, 2010) ・片手オカリナの技能 (和田, 2009) ・カードゲーム実施スキル (榎本, 2013) ・色鉛筆の持ち方 (岸田, 2010)
	空き時間 利用 (2)	<ul style="list-style-type: none"> ・バス停や職場での活用 (和田, 2018) ・余暇時間に何をしたら良いのか自ら見出すのは困難 (平井, 2012)
	施設利用 (1)	<ul style="list-style-type: none"> ・ボウリング場利用に必要な申込用紙の記入やシューズのレンタルの仕方 (高畑, 2004)
人間関係構築 (6)	コミュニ ケーション (5)	<ul style="list-style-type: none"> ・指導者の話を聞くようになったこと (中澤, 2016) ・いろいろな人とかかわることができるようになったこと (中澤, 2016) ・非日常的 (学校とは異なった) な人物とのかかわり方 (藤原ら, 2015) ・挨拶や返事, 会話をする (畠山ら, 2015) ・他者との関わりでの有用性 (平井, 2012)
	環境把握 (1)	<ul style="list-style-type: none"> ・周囲 (他者) の状況を確認できるようになった (中澤, 2016)
健康 保持 (1)	健康保持 (1)	<ul style="list-style-type: none"> ・長期休業中の生活リズムを安定すること (細谷ら, 2017)

の通りである。

余暇支援事例は、主に自閉的傾向のある方を対象としたものであった。これらの余暇支援事例では、余暇レパートリーの増加及び対象者の持つ行動問題の減少などを目的としていた。

2. 余暇関連技能の整理

次に、文献中の実践者の取組から、対象者に身につけさせたい技能として表4のように整理した。

なお、カッコ内の数字は、文献内で確認できた余暇関連技能の記述数である。文献によっては、複数の余暇関連技能の記載があったが、個別に余暇関連技能として抽出した。余暇関連技能が明確に記載されなかった文献もあるため、文献数とカッコ内の数字は一致しない場合もある。

分析の結果、計31本の文献から「行動の維持・発揮」、「活動参加」、「人間関係構築」、「健康保持」の余暇関連技能が抽出された。

「行動の維持・発揮」には、「意思表出」、「選択」、「積極行動」の技能が含まれた。「意思表出」は主に対象となった知的障害者自身がやりたい活動を伝えること、「選択」は活動を自分の意志で選択すること、「積極行動」は活動のために自ら進んで行動に取組むことが技能として含まれた。

「活動参加」には、「遊戯活動」、「空き時間利用」、「施設利用」の技能が含まれた。「遊戯活動」は知的障害者に遊戯活動のレパートリーを提供すること、「空き時間利用」では空き時間における活動内容の獲得、「施設利用」は施設利用の具体的な手続きの習得が技能として含まれた。

「人間関係構築」には、「コミュニケーション」、「環境把握」を抽出した。「コミュニケーション」は他者と関わること、「環境把握」は他者の意図や状況を把握することが技能として含まれた。

最後に「健康保持」は、1本のみで確認できたが、健康の保持のための技能が含まれた。

余暇関連技能の特徴として、いずれも他者や社会環境との関わりを持つ際に必要な技能に関する内容であることが挙げられる。いずれの技能も、余暇に留まらず、社会生活を営む上でも有効なものであると考えられた。

IV 総合的考察

本研究では、知的障害者の余暇実践に関する文献レビューを行い、余暇支援の取組と余暇実践で実践者が習得させたいと意図する余暇関連技能の内容について整理した。

特に、余暇関連技能については、これまで明確に整理

された研究はほとんどない。余暇支援の取組をレビューしていくと、多くの余暇活動の実践報告が、最終的に余暇支援と関連付けて報告されてきているものの、社会生活や職業生活の安定と関連して実践的取組を行っているものがほとんどである。今回、調査によって明らかになった余暇関連技能は、余暇活動を維持するためだけでなく、社会生活や職業生活の維持に必要な技能とも共通することが示唆された。これらの余暇関連技能を、一つの視点として、特別支援学校等における余暇活動の視点として活用することは、余暇活動の実践を行う上で有用ではないかと考えている。

本研究では、あくまでも実践研究として報告された文献を対象とした研究である。そのため、知的障害者の余暇支援の全てを網羅したとは言い難い。その意味で、特別支援学校等での教員の実践などにも範囲を広げて、本研究で得られた余暇関連技能の内容について検討をしていくことが必要である。また、今後に向けては、これらの技能が知的障害者の余暇の充実にどのように結びついているのか、これらの技能を学校現場、職場ではどのように支援することが必要かについては、さらなる研究が必要であると考えられた。

文献

- 榎本拓哉（2013）知的障害を伴った自閉性障害児に対する余暇活動スキルの獲得：ビデオモデリングパッケージからの検討。発達障害システム学研究, 12(2), 55-63.
- 藤原志帆・高森憲吾（2015）特別支援学校の生徒を対象とした余暇支援「おとあそび」の試み。熊本大学教育実践研究, 32, 151-159.
- 畠山富士雄・中村寛志・久野建夫（2011）附属特別支援学校小学部の土曜日キッズサッカーの試み(I)。佐賀大学教育実践研究, 28, 323-341.
- 畠山富士雄・久野建夫（2012）附属特別支援学校小学部の土曜日キッズサッカーの試み(II)－キャリア教育の視点から－。佐賀大学教育実践研究, 29, 127-144.
- 樋田幸恵・山田修平・打波文子（2016）知的障害者生涯学習支援事業の課題と展望－社会福祉士・保育者養成機関での実践から－。淑徳大学短期大学部研究紀要, 55, 17 - 35.
- 平井利明（2012）知的障害者に対する音楽療法とその評価－余暇の活用によるQOLの向上を目指して－。静岡福祉大学紀要, 8, 11-22.
- 細谷一博・北島豊・大庭重治（2004）知的障害児・者を対象とした余暇活動支援事業の実施に伴う検討課題。上越教育大学障害児教育実践センター紀要, 10, 1-6.
- 細谷一博・北村博幸・五十嵐靖夫・廣畑圭介・岡山努（2017）長期休業を活用した知的障害児の余暇支援－サマースクール in 函館の20年の取り組みを通して－。北海道教育大学紀要 教育科学編, 67(2), 77 - 84.
- 加藤浩平（2018）余暇活動支援。日本発達心理学会（編）

- 自閉スペクトラムの発達科学：発達科学ハンドブック
10, 220-229. 新曜社
- 岸田朋子 (2010) 知的障害者への「大人の塗り絵」を用いた余暇指導とそのスキルの向上が対象者とその家族に与える影響の検討. 摂南大学教育学研究, 6, 47-64.
- 厚生労働省 (2019) 平成30年度生涯者雇用実態調査, < https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_05390.html >, < 2022年11月28日 >
- 松下浩之・園山繁樹 (2008) 自閉性障害児の余暇活動における活動スケジュール利用の効果に関する事例的検討. 特殊教育学研究, 46(4), 253-263.
- 文部科学省 (2018a) 特別支援学校学習指導要領総則編, 開隆堂
- 文部科学省 (2018b) 特別支援学校学習指導要領各教科等編, 開隆堂
- 文部科学省 (2021a) 特別支援教育資料 (令和2年度), < https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/material/1406456_00009.htm >, < 2022年11月28日 >
- 文部科学省 (2021b) 障害のある子供の教育支援の手引～子供たち一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向けて～, < https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/material/1340250_00001.htm >, < 2022年11月28日 >
- 村上恵・三木裕和 (2021) 余暇活動を通じて自分らしさを発揮していく特別支援学校高等部の実践報告. 地域教育学研究, 13(1), 1-8.
- 中澤幸子 (2018) 知的障害児・発達障害児の支援に関する実践的研究－大学生による余暇活動の企画運営より－. 山梨障害児教育学研究紀要, 12, 82-90.
- 根本真理子 (2018) 定着支援. 日本職業リハビリテーション学会 (編) 障害者・就労支援のキーワード職業リハビリテーション用語集, 134-135. やどかり出版
- 坂口正治 (2002) 障害児・者の余暇活動－横浜市の知的障害児・者のレジャー・レクリエーション活動の実際 (その2)－. スポーツ健康科学紀要, 2, 35-47.
- 佐々木健太郎・野口和人・村上由則 (2016) 知的障害児の就労後も活用しうる人間関係の構築・拡大を基盤とした移行支援の実践的研究－仲間関係の拡大が顕著に見られたある事例の長期的な分析から－. 宮城教育大学特別支援教育総合研究センター紀要, 11, 47-57.
- 岡部一郎・渡部匡隆 (2006) 発達障害のある生徒の余暇活動の自発的開始の指導：知的障害養護学校における休み時間の変容を通して. 特殊教育学研究, 44(4), 229-242.
- 岡本邦広 (2009) 学校生活への参加が苦手な知的障害を伴う自閉症児の意思を尊重した支援. 特殊教育学研究, 47(2), 129-138.
- 大谷博俊 (2006) 知的障害養護学校における「進路」に関する授業研究. 特殊教育学研究, 43(5), 363-372.
- 高畑庄蔵 (2004) 軽度・中度知的障害生徒と中学生との地域余暇資源を活用した交流活動－養護生徒・中学生・保護者からのアンケートを通して－. 九州ルーテル学院大学発達心理臨床センター年報, 3, 11-21.
- 和田充紀 (2018) 自宅や職場で気軽にできる余暇活動に関する研究－知的障害特別支援学校における「ナンプレ」を活用した実践から－. 富山大学人間発達科学部紀要, 13, 51-58.
- 和田幸子 (2009) 知的障害と右手まひのあるA氏への音楽活動支援－片手オカリナを使った事例の考察－. 関西楽理研究, 26, 1-20.
- 安川直史・小林重雄 (2004) 自閉性障害児の余暇指導の実践－個別教育計画による「一人で水泳に行く」の指導－. 特殊教育学研究, 42(2), 123-132.
- 由谷のみ子・渡部匡隆 (2007) 知的障害養護学校における夏季休業中の余暇支援の実施方法に関する検討. 特殊教育学研究, 45(4), 195-203.

